

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
事業実施報告書

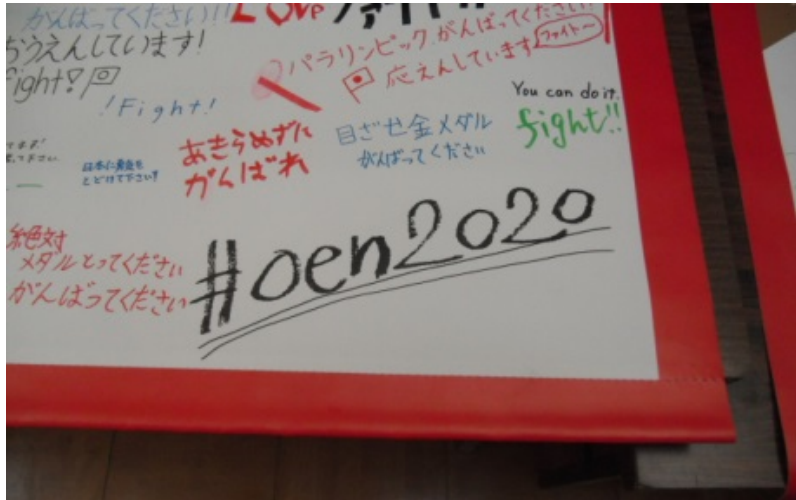

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立七条中学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · II <input checked="" type="radio"/> III · IV <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第1学年 158名 第2学年 137名 第3学年 136名 合計 431名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 <input checked="" type="radio"/> ① 教科名 ( 保健体育科 ) ② 行事名 ( ) <input checked="" type="radio"/> ③ その他 ( 総合的な学習の時間・特別活動 ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	① 保健体育科 ② 総合的な学習の時間 ③ 特別活動 ・オリンピック・パラリンピックを通して、スポーツを「する・見る・知る・支える」ことについて理解する。→ ① ・「共生」について探究する力を身に付ける。→ ① ② ③ ・SDGsの学びとつなげ、実際に生きて働く力にする。→② ・「他者理解」を深め、インクルーシブな社会につながる意識を構築する。→ ① ② ③
5 取組内容	[今年度外部資源及び取組] 4月 ・読売新聞 SDGs ワークシート (興味付けの休校期間の課題) 5月 ・EduTownSDGs ワークシート (休校期間の課題とオリエンテーション) 6月 ・国連広報センターGo ゴールズ SDGs すごろく (事前学習 班で対戦) 7月 ・オリンピック・パラリンピック調べ学習 (第1学年 保健体育科 休校期間からの課題) 8月 ・SDGs 調べ学習 夏季休業中課題 9月 ・パナソニック キッド・ウィットネス・ニュース (以下、KWN)ワークショップ(映像制作ワークショップ Zoom) ・オリンピック・パラリンピック調べ学習 (1年 ポスターセッションと事後レポート) 10月 ・パラリンピックサポートセンター あすチャレ! スクール (体験型講演)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝日新聞SDGs169ターゲットキャッチコピー作り (学年掲示物) + 地域商店街キャッチコピーづくり</li> <li>・ 「聲の形」視聴 (第1学年「共生」について対話)</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パラリンピックサポートセンター あすチャレ!アカデミー (ワークショップ)</li> <li>・ 人権学習「共生」をテーマに対話</li> <li>・ 映像制作1 パナソニックワークショップ課題</li> <li>・ オリンピック・パラリンピック調べ学習 (3年 ポスターセッションと事後レポート)</li> </ul> <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 映像制作2 パナソニックKWN SDGs「今、伝えたいこと」5分間映像コンテスト</li> <li>・ あすチャレ宣言!送付</li> </ul> <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パラリンピック応援フラッグ完成</li> </ul> <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGs アイデアを形にしよう Go Green プロジェクト参加</li> <li>・ 性に関する学習 (「共生」対話)</li> <li>・ オリンピック・パラリンピック調べ学習 (2年 ポスターセッションと事後レポート)</li> </ul> <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリアパスポート 自己のふりかえり</li> </ul>
--	---

<p>6 主な成果</p>	<p>① スポーツを「する」以外の「知る・見る・支える」についての意識が高まり、自分の関わり方を考え行動できるようになった。 (写真はパラリンピック応援フラッグ)</p>  <p>② 年間を通じての学びが、これらの取り組みで繋がり、生徒と指導者共に、横断的な視点をもつことができた。 (写真は外部講師によるオンラインワークショップ)</p> 
---------------	--

- ③ 「共生」やSDGsをテーマに対話を繰り返し行い、合わせて発表や応募をきっかけに、協働的な活動が生まれ、これまでの学びを活用することができた。

(写真は、発表前のポスターを元に質問を予想している様子)



(写真はポスターセッションの様子  
クラス単位で四部制10ブース 実施は全学年)



- ④ 指導者の関わりが、指導からファシリテーターへと変容しつつあり、生徒の主体的な活動を引き出すことにつながった。

(写真は応募前映像のチェックと成果物の相互評価の様子)



- ⑤ パラリンピアンとの関わり（講演・ワークショップ）から、他者理解の意識だけでなく、自分事にする意識も高まった。

(写真はあすチャレ！アカデミーでのワークショップ)



(写真は、あすチャレ！スクールでの体験の様子)



- ⑥ まとめレポートからは、「パラリンピックに対する興味が高まった」ことや、「自分が何か関われることはないか」といった意識、「障がいのある方との関わりをきっかけに、共生について考えることができた」など自分の内面の動きを表す内容が伺えた。

7実践において工夫した点  
(事業の特色)

- ① 子どもと関わる3年間の学年経営をカリキュラムデザインするにあたり、「子どもの学びと教員同士のつながり」を生み出すものを軸にすること。

(写真は、「対話」について教員が寸劇で示しているところ)



(写真は初めての「対話」に取り組んでいる様子)



(以後は、班長や副班長がフロアファシリテーターとなり進めている。)

- ② SDGsを活用するために、総合的な学習の時間と特別活動を軸にし教科横断的視点と、縦断的視点を描けるようにしたこと。
- ③ オリンピック・パラリンピック教育を単発のイベントにするのではなく、①②を実践するための方法として活用すること。
- ④ 前年度までの「文科省 教科等の本質を踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」の基盤を活かし、新学習指導要領の内容の実践につながるものにする。

8 主な課題等

- ① 子どもと関わる3年間のカリキュラムデザインをまず始めに考える必要がある。そこから、いつ、どんなことを取り組むかを決める必要がある。何をやるかから始めると、取り組みを行うことが目的になってしまう。手段が目的化しないために、何を目的にどの取組を組み入れるかを精選する必要がある。
- ② ゼロベースから行くと、時間と労力が過剰になるため、外部資源の積極的な活用が必要。ただし外部資源を取り入れる視点を市内に限定せず、市外や全国・世界などに広げ、講演やワークショップもオンライン活用を併用する視点が必要。
- ③ ①②共にカリキュラムデザインやSDGs、これからの学びについて理解できているかどうかが重要である。取り組みの成果物などの見えることだけでなく、対話や実践中の経過など見えないことをどのように評価し改善するのかという視点で、学びをつなげ続ける必要がある。
- ④ ポスターセッションなどの方法（や成果物）をゴールにするのではなく、それらを元に何を学んだのか振り返り、さらに新しい問いを生み出し、次の学びにつなげ活用するようにする。

9 来年度以降の実施予定

3年間を通しての探究活動になるよう、今年度は「共生」、来年度は「国際理解」再来年度は「自分事」として展開する予定。今年度の方法を見直し調整しながら、さらに学びが深まるようにオリンピック・パラリンピック教育を活用していきたい。また、コロナ禍での学びや今後のオリンピック・パラリンピックの動向をきっかけに、スクラップ&ビルドの視点を持ち、ICTと外部資源の引き続きの活用や、「主体的・対話的で深い学び」のさら

なる実践を進めていきたい。

参考図書

- ・安斎勇樹・塩瀬隆之(2020)『問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- ・北尾倫彦(2020)『『深い学び』の科学』図書文化社
- ・岡本智周(2011)『共生と希望の教育学』筑波大学出版会  
→ 水本徳明「共生のフィールドとしての学校 コラボレーションとしての学校」
- ・片山紀子・若松俊介(2019)『対話を生み出す授業ファシリテート入門』ジダイ社
- ・沼田晶弘(2019)『SDGs めまっち式アクション100学校編』鈴木出版